

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2794700068		
法人名	社会福祉法人 豊悠福祉会		
事業所名	グループホーム祥雲館(花みずきユニット)		
所在地	大阪府豊能郡豊能町吉川36番地の1		
自己評価作成日	平成 30年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794700068-004&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794700068-004&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が住みやすく家庭的な雰囲気を目指しています。利用者＝お客様だけではなく、尊敬を持ち続ける中で共に生活者として接しています。日常作業のすべてをスタッフが行うのではなく、残存機能を生かすことを目的とし、又本人に役割を持ってもらえるように一緒に取り組み「いつまでも役割のある生活を」と常に接しています。交流スペースも上手く使い、安らげる場所を提供出来るように取り組んでいます。利用者のケア技法の一つとしてバリエーションへの取り組みを行い、ケアの質を向上を目指し、地域にも広がっていくように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「1. 私たちは、祥雲館を必要とする全ての方々思いに共感し支えます～」を理念の序章とし、地域福祉に貢献してきた社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。デイサービスセンターやショートステイホームと隣接し、各種行事等で連携した運営をしています。定期的に開催している「笑雲café」は開設後30回を超え、地域交流の場として発展しています。職員はやさしく、利用者が買物や散歩、草花や観賞魚の世話、喫煙や嗜好品等を楽しめるように、利用者一人ひとりの意向に沿った暮らしの支援をしています。日帰り温泉旅行や観劇等も企画してリフレッシュする機会を設けています。アロマテラピーで心身のリラックスを行い、利用者が思いを出しやすくなるよう支援しています。サービス担当者会議に家族の参加を呼びかけ、利用者・家族の意向を重視した取り組みをしています。提携医師、看護師と連携して24時間オンコール体制を整え、終末期支援に取り組んでいます。家族会を開催し、毎年家族アンケートを実施して運営に活かしながら、さらにサービス向上をめざしているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼時に職員で理念の唱和を行っている。 各職員に対して、経営基本方針を配布し、理念の提示を行っている。 年1回方針連絡会を行っています。	理念には「1. 私たちは、祥雲館を必要とする全ての方々の思いに共感し支えます。1. 私たちは、利用者を、地域を、仲間を、施設や法人を、愛し敬う心を大切にします。1. 私たちは、人から家族へ、家族から地域へ、地域から社会への貢献の波をつくります。」を掲げて、地域密着型サービスの意義をふまえた取り組みを進めています。理念はホーム内に掲示して共有し、職員会議等で話し合っ理解を深め、ユニット目標としても具体化しながら実践につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域ボランティアの方も来て頂き一緒に活動しています。                      地元のお祭りに出かけたり、定期的なCafeを開催し、町おこしなど行い、地域の方々と交流に勤めています。</p>	<p>利用者は地域の一人として、祭りや小学校の運動会等、地域行事へ参加して交流する機会を持っています。地域ボランティアの協力を得てクラブ活動や行事を楽しみ、地域のレストランや喫茶店に出かけて、近隣住民との会話を楽しんでいます。法人主催の行事には地域から多くの参加があり、友人や知人と出会うこともあります。定期的に行っている「笑雲 café」は開設後30回を超え、地域との交流の場として発展しています。利用者が届け出なく一人で外出した場合にも、自治会等地域住民の協力により無事に帰ることができ、地域連携の重要性を実感しています。ホームではさらに地域交流を進めるために、保育園児との交流を企画しています。また、地域住民向けの「介護教室」を毎月1回開催し地域貢献に努めています。</p>	<p>職員はホームが地域の「憩いの場」としても活用されるよう取り組む予定にしています。当面は保育所との交流を進めることを企画しています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>年4回の町おこし活動                      3ヶ月に1回のCafe活動                      毎月1回、介護教室を開催しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会、民生委員、家族の代表、役場の担当者の参加で、2ヶ月に1回、意見交換を行っている。                      事故報告・ヒヤリハットについても報告をあげている。</p>	<p>運営推進会議は規程を定め2か月に1回開催しています。会議には家族代表、自治会役員、民生委員・児童委員、町の職員等が参加しています。会議内容は運営状況、行事、事故報告等を行い、利用者の暮らしの様子を伝える場になっています。家族からの提案で意見箱を設置し、サービス向上に活かしています。議事録は玄関に設置し、誰でも見ることができます。</p>	<p>運営推進会議の内容については、毎月発行している「グループホーム便り」に記載し、利用者・家族に周知する方向で進めています。取り組みの成果が期待されます。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、行政連絡事項等を尋ねたり、必要時連絡を行っている。                      認知症サパーターの育成、徘徊ネットワークなどの協力。</p>	<p>管理者は町の担当者と何かあれば連絡をして情報を交換したり、相談をしたりして協力関係を深めています。当法人は歴史的な経過もあり、町内の介護保険事業の多くを担うことで地域の福祉に貢献し、町と協力して住民の生活を支えている状況があり、町職員との連携を重視した取り組みを進めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修を実施し、身体拘束についての知識習得に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営規程や重要事項説明書に身体拘束等の禁止について明記し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。現在、身体拘束の事例はありません。職員は内部研修や日々のミーティング等で利用者の人権や尊厳を守るケアについて確認しています。玄関扉は施錠していますが、外出願望のある利用者については、見守りや付き添いで対応しています。</p>	<p>利用者の安全に配慮し玄関扉は施錠していますが、鍵をかけないケアの重要性について、職員間で再確認してはいかがでしょうか。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を実施し、虐待についての知識習得に努め心身に対する虐待のないケアに取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修の参加をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書に添って個別に説明し、質問に答えている。又、気がついて点などあればいつでも質問して受ける事を伝えている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>                      利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回、家族向けにケアに対するアンケートを実施し、改善に努めている。</p>	<p>年に2回家族交流会を行い、家族間の交流を進めながら要望や意見を聞いています。また、年に1回家族向けアンケートを実施し、家族の声をまとめて分析し、数年間の結果を比較してサービス向上に繋げながら、さらに業務改善に取り組んでいます。介護相談員の訪問を通じて利用者支援の充実に取り組み、意見箱を設置して利用者・家族が要望や意見を出しやすいようにしています。月に1回「グループホーム便り」を発行し、利用者の様子や行事予定等を家族に送付して家族との連携を図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議を開催し、現場の意見も反映するように努めています。                      職員向けのアンケートを年に1回実施し、運営への意反映に努めています。</p>	<p>管理者は日頃から職員の意見を聞き、提案や相談事については一緒に話し合っています。職員は毎朝の申し送り時や毎月の会議でホーム運営に関する意見や提案をしています。また、法人全体の各種会議にも参画して、提案する機会を持っています。管理者は職員向けのアンケートを年に1回実施し、個別面談を行い、職員の意見反映に努めています。</p>	<p>管理者は職員研修を重視し、認知症ケアの中核となるような職員育成をめざしています。当面は法人全体で取り組んでいるバリデーション(認知症の人の経験や感情を認め、共感し、力づける)を進めながら、日常生活支援を充実させ、認知症ケアの向上につなげる予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半年ごとに評価を実施し、賞与に反映しています。                      評価後に個別面談を実施し職員へ伝えていきます。</p>	/	/
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJTによる現場での実践力の習得・ケアに対する意味等を考える事を始動している。                      各種、内部研修を実施し、知識や技術の習得に努めている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学や見学者の訪問を設けたり意見交換などを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにより生活暦等を調べ、それと基に本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスを基に、家族にも相談し、訪問時などを利用して不安や疑問に感じている事を吸い上げて行く事で信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りによって生活暦等を調べ、それを基に本人との信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声に耳を傾け、不安や苦しみ・喜びを知る姿勢を持ち、共感しています。 必要時に個別の対応をしていくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時、本人の様子を伝えながら、家族が不安に感じている事や困っている事などを吸い上げ、家族との関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーや喫茶店等に出かけ、本人の知り得る場所とのつながりを切らないように努めている。	職員は利用者の馴染みの場所や人との関係について、入居時や日々のケアのなかで聞き取り、職員間で共有し支援に活かしています。行きつけの食堂やカフェに行く利用者をサポートし、なじみの関係が続くように支援しています。併設の特養やデイサービス等を利用している親戚や知人が会いに来てくれることもあり、職員は馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係を考慮しながら、食堂テーブルや座席などを検討している。決まった場所に固定せず、その時の関係を大事にし、利用者を選んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内の他事業所に移動された利用者の方と交流があり、話しをする場面があります。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方との対話の場合で出来る限り声を拾って思いや意向を実現出来るように心掛けている。	職員は普段の会話から、利用者の生活歴や趣味、嗜好等を把握し記録に残して共有し支援に活かしています。言葉で表現しにくい場合には表情やしぐさで意向を確認し、筆談等も行いながら、それぞれの意向に沿った支援をしています。希望に沿って一緒に買い物に出かけ、周辺の散歩に付き添い、植栽の水やりや観賞魚の餌やり、喫煙を楽しむ支援をするなど、利用者一人ひとりの意向に沿った暮らしの支援をしています。状況に沿って、アロマテラピーを行い心身のリラックスをすることで、利用者の思いを出しやすくする取り組みもしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族の方からの聞き取りにて以前の生活についての把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でニーズは、出来る事は何かを考え、カンファレンスを実施し支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、ニーズを確認し、計画を立て、実施している。 家族を交えたサービス担当者会議を開催するようにしている。	介護計画書作成時には利用者・家族の意向を細やかに確認し、担当職員の見解を聞いて案を作成し、サービス担当者会議で検討しています。サービス担当者会議には家族、医師、看護師、管理栄養士等が参加しています。介護計画書はサービスチェック表で実施状況を確認し、毎月モニタリングをして6か月に1回見直しをしています。状況の変化が著しい場合には、その都度見直しをして状況に沿った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日々の変化に柔軟に対応出来るように随時カンファレンスを行っている。 カンファレンスは書式化し、回覧ファイルにて情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外部からのおしゃれ屋(散髪)やパンの訪問販売を招いたり、その時に応じて他部署からの協力を依頼している。生活に必要な物があれば、家族と相談し、買い物に出かけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元のお祭りに参加や自治会での取り組みに参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回、往診に来て頂いている。個々で主治医が違う為、Dr と家族とも連絡を取りながら適切な医療を受けられるように努めている。</p>	<p>利用者・家族の希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。提携医師、看護師と連携して24時間オンコール体制を整えています。利用者が入居前からかかりつけている専門医や歯科、眼科等の受診時には家族が付き添い受診をしています。家族の都合がつかない場合や緊急時等には職員が付き添い支援をしています。入院が必要な場合には家族の希望する病院に入院できるよう支援しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>不調の兆しや訴えがあったとき、看護師に連絡し、指示を仰いでいる。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関に、入院時等、利用者の情報を提供したり、定期的に面会に訪れ、早期退院に結びつくよう努めている。</p>		
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所内で定期的に研修を実施し、知識取得に努めている。</p>	<p>看取りマニュアルを作成しています。入居時には利用者家族に終末期支援についての方針を説明し、意向確認をしています。利用者が重度化した場合には改めて意向を確認し、看取り支援を希望する場合には医師・看護師等を交えた話し合いを設定し、医療と連携した取り組みをしています。職員は終末期支援についての研修を受けて支援に活かしています。ホームでは最近にも終末期支援に取り組み、家族や親族と利用者の安らかな最期を看取った経験があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所内で定期的に研修を実施し、知識習得に努めている。                      各部署にマニュアル本を置き、緊急時にも対応できるように努めている。</p>	/	/
35	13	<p><b>○災害対策</b>                      火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に地元消防署にも協力を依頼し、避難訓練を実施している。</p>	<p>災害対応マニュアルを策定し、消防署と連携して年に2回、災害時避難訓練を実施しています。消防署の管轄が統合により広域となった事情があり、平成29年度の訓練には消防署の立ち合いはできていない状況です。マニュアルは火災、地震時の初期対応等「命を守る」内容になっています。地域住民とは専門家による「防災について」の講習を共に受け、内容を共有しています。職員は非常口の鍵を常時身に付け、災害時には速やかに利用者を避難誘導できるよう備えています。災害時の備蓄品は、すぐ近くにある同法人特養に保管しています。</p>	<p>災害時の備蓄については、水・食料品・生活用品等を、当ホーム内に必要量保管することが望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室。WC、浴室、居室などは本人が鍵をかけられるようにしている。	利用者一人ひとりの意向を大切にした対応や言葉かけをしています。法人内会議や研修を行い、職員が接遇について学習する機会を設けています。ホームでは常に適切な言葉使いや対応ができるよう職員間で注意喚起しています。個人情報の取り扱いについては従業者の雇用契約として、守秘義務を徹底しています。記録等は保管場所を決めて管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での本人の要望等は出来る限りレクリエーションや行事に反映出来るように努めています。また、選択肢がある場合には希望を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を大切に、スタッフの都合に合わせることなく、一人ひとりのペースで支援していくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、地元の散髪屋を利用したり、訪問理容に来て頂いている。日中、夜間の更衣を行っている。季節に合った衣類調整を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立がわかるようにボードに記入したり、食事の盛り付けと一緒に手伝ってもらっている。 オムライスや海苔巻き等は一緒に手伝って頂く。また月1回、利用者の好みを確認しながら、1日の食事の全てを調理している。</p>	<p>ホームでは朝、昼、夕、3食とも、隣接する法人厨房で作られた食事が運ばれ、利用者は職員と共に盛り付けや配膳など得意なことで力を発揮しています。毎月1回は利用者と共に買物に出かけ、食材を選び、利用者の希望に沿った献立で1日分の食事作りを楽しんでいます。ホーム菜園で育てた野菜類を調理して楽しむこともあります。希望に沿っておやつ作り、バーベキュー、お好み焼き作り等にも取り組んでいます。お誕生会では利用者の好きなものを用意しています。利用者はレストランや喫茶店、日帰り温泉等にも出かけ、好きなものを注文して楽しんでいます。</p>	
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時、喫茶時等の摂取量を確認している。管理栄養士とも連携ととり、連絡・相談をしている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に歯磨き、うがいを促している。義歯の方も同様に実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄リズムを把握する為、チェック表を使って、自立支援に努めている。適量の水分を摂取できるように努めている。</p>	<p>ホームでは自立支援プロジェクトの一つとして、排泄介助の見直しをしています。当面は「オムツからトイレへ」を課題として取り組んでいます。職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し支援に活かしています。利用者のペースに合わせた支援を行い、利用者が自分で見守り、自立支援に努めています。また、「介護用トイレ手すり」を設置して、利用者がゆっくり、安心して排泄できるように取り組んでいます。水分や運動、食事内容を調整して自然に排便ができるように支援しています。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>最終排便を確認しており、その中看護師とも連携し消化剤や下剤などを使いコントロールしている。 出来る限り、自然排便を促すために定期的な運動も促すように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々が入りたい気持ちを最優先できるように努めている。 個々のアプローチを徹底することで、入浴困難な方にも定期的に入浴を促している。	ホームでは利用者一人ひとりの希望に沿った入浴支援をしています。毎日のように入浴している利用者もいますが、週に2～3回の入浴が多い状況です。入浴を好まない利用者には、声かけを工夫し、時間をおいて勧めるなどの取り組みをしています。ゆず湯等の季節湯や入浴剤等も用意して利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族の方にも協力を依頼し、物品を準備したりでている。生活リズムを基準に適時臥床を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服管理を行い、配薬時に個人名の確認と声かけを行い、安全・確実に服薬して頂けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活全般において、役割を持って頂き、支援している。 個々にあったレクリエーションを提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ドライブや買い物、散歩や近くの Café での交流を実施しています。 利用者の希望に添ってベランダでの喫茶も適時実施している。</p>	<p>気候の良い時期には、日常的に散歩や周辺散策に出かけています。近くにはスーパー等が無いことから、買い物を兼ねてドライブに出ることもあります。家族と共にレストランや演芸会等に出かける利用者もいます。外出を兼ねてお弁当を作り、玄関前の広場等で食べる取り組みもしています。利用者の希望に沿って親族の葬儀に職員が付き添うこともあります。職員はできるだけ利用者の外出希望に沿えるように工夫していますが、一部外出が少ない利用者も見られます。</p>	<p>外出や散歩等がむずかしい利用者には、短時間でも玄関を出て日常と違う景色を見ながら、ホーム外の人とも出会う機会を持つことで、生活に変化が生まれリフレッシュできるのではないのでしょうか。利用者の外出については記録をわかりやすくするよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の方の希望でお金を所持されている方もおられる。 買い物と一緒に出かけることも実施している。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の使用は事前に家族の意向を確認しており、その中で出来る範囲の中、利用者から希望があれば対応している。 手紙についても随時対応できるよう準備している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人が不快にならないようテーブルの配置を考え、随時変更している。 利用者の選択肢や意向も大事にしている。 浴室は自立して入浴出来るよう支援している。	ホームは豊かな自然に恵まれ、どの場所からも四季を感じることができます。 ホーム玄関は門扉を開けて草花や木立のある小道を歩いた場所にあります。玄関は和風で、ユニット毎に季節の飾り付けをして楽しめるようにしています。ホーム内には観賞魚や活花等を置いて、利用者が楽しめるようにしています。テレビとソファを置いてくつろげるコーナーを作り、来訪者との談話コーナーや利用者の喫煙場所等を設けています。キーボードを置いて利用者がいつでも演奏できるようにするなど、一人ひとりの状況に沿った支援をしています。浴室には介助用のイスを置いて、利用者が安心して入浴できるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも談話室スペースを設け、その時に応じた空間を自己決定できるよう配慮している。 ユニット固定ではなく、流動的に活用するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて温度調節を行い、清潔感を保つことにより、居心地のよい空間作りに努めている。 家族にも協力を依頼し、使い慣れた物等を持参して頂いている。	居室入口には利用者の好みの装飾をして表札を掲げ、利用者が自室を分かりやすいように工夫しています。室内には備え付けのベッドがあり、家具や調度品は利用者が持ち込み配置しています。利用者はテレビ、机、イス、ぬいぐるみ、自作の絵や写真、時計、タンス等、使い慣れた家具類を持参して自分らしい居室作りをしています。職員は利用者が安心して過ごせるように空調に配慮し、利用者と共に整理整頓を行い、清潔感のある居室を維持できるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の高さにも配慮し、自立支援に努めている。 利用者間のトラブル防止の為、WC・居室の表札などに工夫をしている。		